

## 2020年、サンクスギビングデー特別集会のための標語

一人の新しい人のために、ご自身をもってわたしたちの文化に置き換わるキリストは、すべてを含む、無限に拡張するキリスト、首位である方、神のエコノミーの中心性と普遍性です。

わたしたちがすべてを含む、無限に拡張するキリストのビジョンを持ち、キリストをわたしたちの命またわたしたちの全存在の構成要素として経験し、わたしたちの文化ではなく彼を生きるとき、一人の新しい人は実際的にわたしたちの間に出現し、わたしたちは新しい人の生活を実際化します。

一人の新しい人の生活は、イエスの生活と全く同じであるべきです。団体的な神・人としての一人の新しい人のために、わたしたちは神・人の生活をする必要があります

わたしたちは、一つ霊を飲むことによって古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着る必要があります。それは、わたしたちが、実際の日常生活のあらゆる面で、わたしたちの思いの霊の中で新しくされて、主の心の願いを遂行し、実際に一人の新しい人を持つためです。

2020年11月26日－29日

主題：

一人の新しい人のために、  
すべてを含む、無限に拡張するキリストは、文化に置き換わる

メッセージ 1

わたしたちの文化が、  
すべてを含む、無限に拡張するキリストによって置き換えられる緊急の必要

聖書：コロサイ 1:12-13, 15-18, 27. 2:8, 14-15. 3:4, 10-11

I. コロサイ人への手紙が書かれたのは、コロサイに在る召会が文化をもって浸透されており、聖徒たちが文化によってキリストからそらされていたからです——コロサイ 2:8, 16-17. 3:10-11：

- A. コロサイにおいて、文化が召会に押し寄せ、キリストに置き換わり、聖徒たちをとりことして奪い去りました—— 2:8。
- B. 神の敵は文化を利用してキリストに置き換えます。敵は文化の良い面を利用してキリストに置き換えようとします——参照、ピリピ 3:4-8。
- C. コロサイ人への手紙によれば、キリストは文化によって置き換えられています。コロサイ人への手紙は、キリストに最終的に置き換わるものがわたしたちの文化であることを示しています。
- D. コロサイ人への手紙で、「暗やみの権威」は特に、文化の良い面とわたしたちの天然の人の良い面とを指しています——コロサイ 1:12-13：
  - 1. コロサイの聖徒たちは文化の最高の面を召会に侵入させることによって、暗やみの権威の下に落ち込んでしまいました—— 2:8。
  - 2. 文化の最高の産物は、実は暗やみの権威の各面であり、それによってサタンは人々を制御します—— 1:13。
  - 3. キリストの代替物であるものは何であれ、わたしたちを制御する暗やみの権威となります—— 13 節。

II. 人類文化は人の墮落の後、起こりました——創 4:16-22：

- A. カインは神の面前を去った後、自分の保護と自己の生存のために町を建設しました——創 4:16-17：
  - 1. 彼はこの町の中で神のない文化を生み出しました。
  - 2. 園の中で、神は人のすべてでした。すなわち人の保護、維持、供給、娯楽でした。人は神を失ったとき、すべてを失いました。
  - 3. 人が神を失ったことは、人に強いて人の文化を發明させました。その主要な要素は、生存のための町、生計を立てるために家畜を飼うこと、娯

楽のための音楽、防御のための武器でした—— 20-22 節。

B. 一見して、神のない文化が、神の道を行くことを拒否して神を失った人によって発明されました。実は、文化の内在的な要因は、神から離れた人の内側にある、神の敵サタンの扇動とそそのかしでした——創 4:7, 16-17. マタイ 12:26 :

1. 神がなくサタンに結合されたそのような文化は、典型的なものとなって各時代にわたる全人類のすべての文化を表します。これが表徴するのは、文化が神のないものであり、サタンに従っており、サタンに結合されているということです——参照、ルカ 4:6, フットノート 1。
2. 神のない文化は創世記第 4 章で種として開始しました。そして人類歴史を通して発展し、ついには啓示録第 18 章の大いなるバビロンにおいて究極的に完成します。
3. マタイ第 24 章 37 節から 39 節の主の言葉が示しているのは、ノアの時代の神のない文化が、主の来臨の時期にその頂点に発展するということです。

**III. 文化は、キリストと召会に関する神の定められた御旨を妨げます——エペソ 3:10-11. 5:32 :**

- A. とてもこうかつなものが、キリストと召会の道に立ちはだかっています。このこうかつな敵対する要素は文化です——コロサイ 3:10-11. エペソ 2:14-15. コロサイ 2:14-15。
- B. 文化は、キリストを経験することに対する大きな妨げです。無意識的にも潜在意識的にも、わたしたちは文化によって、キリストを経験し享受することから妨げられています——ピリピ 3:7-8。
- C. わたしたちがすべての事でキリストの中へと成長し込み、一人の完全に成長した人に到達することは、わたしたちのこうかつな、隠れた文化によって妨げられています——コロサイ 2:19. エペソ 4:13, 15-16。

**IV. 人類文化は神の王国に敵対しています——マタイ 10:16-25, 34-39. 12:29, 46-50 :**

- A. 罪深い事は、人類文化ほどには神の王国に敵対しません。
- B. 人類文化は、サタンの王国の基本的な部分、また極めて大きな部分となりました—— 26 節。
- C. 文化はサタンの要塞となりました。サタンはこうかつな方法で文化を維持し、文化を利用して神の王国に敵対しています——使徒 26:18. コロサイ 1:12-13。

**V. キリストはすべてを含む、無限に拡張する方として文化に相對しており、ご自身をもってわたしたちの文化に置き換わるべきです——コロサイ 1:18. 3:4, 10-11 :**

- A. コロサイ人への手紙におけるキリストの無限に拡張する啓示の目的は、文化を対処することです—— 2:8. 3:10-11。
- B. この書でパウロは、すべてを含む、無限に拡張するキリストのビジョンを提示して、このキリストがわたしたちの文化に置き換わるべきであるという事実をわたしたちに印象づけています—— 1:27。
- VI. 文化に置き換わるキリストは、すべてを含む、無限に拡張するキリスト、首位である方、神のエコノミーの中心性と普遍性です——コロサイ 1:15-18. 2:16-17. 3:4, 10-11 :**
- A. わたしたちの文化に置き換わり、わたしたちにとってすべてとなることができるキリストは、すべてを含む、無限に拡張するキリストです—— 1:15, 18。
- B. コロサイ人への手紙が書かれたのは、すべてを含む、無限に拡張するキリストを啓示するためです。この方は、わたしたちの文化を対処し、ご自身をもってわたしたちの文化に置き換わります—— 3:4, 10-11。
- C. 神は彼の救いにおいて、わたしたちを罪、裁き、火の池、この世、自己から救うだけではありません。彼はまたわたしたちを、わたしたちの文化を含めて、キリストに置き換わるすべてのものから救います——ヘブル 7:25。
- D. すべてを含む、無限に拡張するキリストはわたしたちの中にいます。わたしたちは彼に、わたしたちの全存在を満たしていただき、ご自身をもってわたしたちの文化に置き換わっていただく必要があります——エペソ 3:17 前半. コロサイ 1:27. 3:11。

わたしたちの文化を生きずに、すべてを含む、無限に拡張するキリストを生きる  
聖書：エペソ 3:11, 16-17 前半. ピリピ 1:20-21 前半. コロサイ 1:15, 18, 27. 3:4, 10-11

I. 聖書の中心思想は、わたしたちがキリストのからだ、一人の新しい人としての  
召会のためにキリストを生きることを、神が願っているということです  
——ピリピ 1:21 前半. エペソ 2:15-16 :

A. 神の意図は、わたしたちがキリストで浸透され、飽和され、満たされ、キ  
リストを着て、キリストを生きることで— 3:17 前半. ガラテヤ 2:20.  
3:27. 4:19。

B. クリスチャン生活は、キリストの信者がキリストを生き、キリストを大き  
く表現する生活です——ピリピ 1:20-21 前半。

C. キリストを生きることは、ひとりのパースン、すなわちキリストご自身を  
生きることで—コロサイ 1:27. ローマ 8:10 :

1. もしわたしたちがキリストを生きようとするなら、彼をわたしたちのパ  
ースンとし、彼と一つのパースンにならなければなりません。彼とわた  
したちは、実行上、一とならなければなりません——I コリント 6:17。

2. もしわたしたちが光を得て、どのようにしてキリストがわたしたちの日  
常生活において置き換えられているかを見るなら、わたしたちは主に対  
して、わたしたちが主を生きているのではなく、他の多くの事物を生き  
ていることを告白し、またわたしたちがキリストによって生きるよりも  
文化によって生きていることを告白するでしょう——I ヨハネ 1:7。

D. わたしたちがキリストを生きていないのは、わたしたちがキリストで構成  
されていないからです。わたしたちを構成しているものを、わたしたちは  
生きます——コロサイ 3:4, 10-11. エペソ 3:17 前半。

II. すべてを含む、無限に拡張するキリストが文化に相対するという事柄に関し  
て、わたしたちは次の事を見る必要があります。すなわち、聖書の完全な啓  
示によれば、神の意図とは、ご自身をキリストにあって、彼の選ばれ、贖わ  
れ、再生された人の中へと造り込むことであるということです——ガラテヤ  
1:15-16. 2:20. 4:19 :

A. 宇宙におけるすべての時代と世代を通しての神の中心的な働き、神の唯一  
の働きは、ご自身をキリストにあって、彼の選ばれた人の中へと造り込ん  
で、ご自身を彼らと一にすることです——エペソ 3:17 前半. I コリント 6:17。

B. 神の意図は、ご自身をキリストにあってわたしたちの中へと徹底的に造り  
込み、ご自身をわたしたちの内側の要素とすることです——エペソ 3:11,  
16-19。

C. 神の永遠のエコノミーを成就するために神が必要とするのは、ご自身をキ  
リストにあってわたしたちの存在の中へと建造し込んで、わたしたちの命、

性質、構成要素とならせ、わたしたちを神格においてではなく、命と性質において神とならせることです——サムエル下 7:12-14 前半、ローマ 1:3-4、エペソ 3:17 前半、ヨハネ 14:23、コロサイ 3:10-11 :

1. わたしたちが必要とするのは、神がご自身をキリストにあって、わたしたちの内在的な構成の中へと建造し込んで、わたしたちの全存在をキリストで再構成することです——エペソ 3:17 前半。
2. キリストが召会を建造するのは、わたしたちの霊の中へと入って来て、ご自身をわたしたちの霊から、わたしたちの思い、感情、意志の中へと拡大させて、わたしたちの魂全体を占有することによってです——マタイ 16:18、エペソ 3:17 前半。

**Ⅲ. キリストは文化に相対すると言いつき、それはわたしたちが文化を捨てて、どんな文化も持たずに生きるということを行っているではありません——コロサイ 3:10-11 :**

- A. キリストを持っていない人たちは、必ず文化にしたがって生きる必要があります。なぜなら、文化は人を保護し、規正し、改善するからです。
- B. すべてを含む、無限に拡張するキリストを受け入れる前、あらゆる人は文化を必要とします。
- C. わたしたちはキリストを受け入れた後、文化にキリストを制限させたり、わたしたちがキリストを経験し享受するのを妨げさせたりすべきではありません。反対に、わたしたちは文化にしたがってではなく、キリストにしたがって生きることを学び始めるべきです—— 2:6-7。
- D. 子供たちは成長する時、文化と律法を必要とします——ガラテヤ 3:23-28 :
  1. 子供たちはキリストを受け入れる前、文化にしたがって、また律法の下で、訓練されなければなりません—— 23-24 節。
  2. 彼らがキリストを受け入れた後、徐々にわたしたちは彼らを助けて、文化からキリストへと向きを変えさせることができます——ヨハネ 1:12-13、6:57。

**Ⅳ. わたしたちはすでにキリストを受け入れたのですから、文化を彼の代替物とならせるべきではありません——コロサイ 2:6、3:10-11 :**

- A. あらゆる種類の文化はキリストに相対し、キリストはあらゆる種類の文化に相対します——コロサイ 3:11 :
  1. あらゆる文化は、どのような種類の文化であろうと、キリストに相対します。
  2. キリストがなければ、わたしたちの持っているあらゆるものや、人類のあらゆる産物や発展は、文化の一部です。
- B. キリストの享受が拡大するのを制限している要因は、文化です。自然に、わたしたちの中の文化は、わたしたちがキリストの真の経験を持つことが

できないようにします——ピリピ 3:3-9。

C. わたしたちの文化は、わたしたちがキリストを経験し、キリストを享受し、キリストを生きることを妨げるので、わたしたちが主から受けている重い負担は、主の回復の中のすべての聖徒が、キリストを命じたパーソンとして、彼らの文化に置き換わっていただくことを、実際的に学ぶこと——エペソ 3:17 前半、コロサイ 3:4。

D. キリストの中でわたしたちは自由を持ち、わたしたちの文化をわきに置き、主を享受するわたしたちの度量を拡大させます。わたしたちの内側のすべての部分は、キリストに明け渡されなければなりません。

E. もしわたしたちの内側のすべての部分がキリストに明け渡されるなら、わたしたちの中の文化は、わたしたちの中に住んでいるキリストによって自然に置き換えられます——1:27、3:11。

**V. 極めて重要な事は、すべてを含む、無限に拡張するキリストのビジョンを、わたしたちが見ることです。わたしたちはキリストのそのようなビジョンなしに、わたしたちの文化を捨てようと奮闘すべきではありません——使徒 26:19、エペソ 1:17-23 :**

A. わたしたちに内住しているキリストは、小さな、制限されたキリストではありません。彼は、見えない神のかたちである方、神の豊満の具体化である方、神のエコノミーの中心点である方です——コロサイ 1:15、18、2:2、9-10 :

1. そのようなキリストは今や、わたしたちの中に住んでおり、彼ご自身をわたしたちの全存在へと拡大させる機会を待っています——1:27。

2. このキリストは、わたしたちの日常生活の中であらゆるものとなるべきです。わたしたちは彼を生きるべきであり、わたしたちの生活の中で文化にどんな立場も与えるべきではありません——ピリピ 1:21 前半、コロサイ 3:11。

B. わたしたちは、すべてを含む、無限に拡張するキリストのビジョンを見たらすぐに、わたしたちの文化的な背景をわきに置くことを始めるべきであって、それがキリストに置き換わったり、キリストを制限したりすることを許すべきではありません——使徒 9:4-5、26:19、ピリピ 3:7-10 :

1. わたしたちは、わたしたちの生活の中で文化にどんな立場も与えるべきではありません。

2. 反対に、わたしたちの中のすべての部分は、わたしたちの中に住んでいる、すべてを含む、無限に拡張するキリストに与えられるべきです——コロサイ 1:27。

C. もしわたしたちが、内住する、すべてを含む、無限に拡張するキリストについてのそのようなビジョンを見るなら、自然にわたしたちの文化を捨て

るでしょう——コロサイ 3:10-11 :

1. かつては、キリストが文化によって置き換えられていました。しかし、いったんわたしたちがこのビジョンを見たなら、わたしたちの中の文化はキリストによって置き換えられます—— 11 節。
  2. わたしたちは自分の文化を捨てようとするのではなく、ただキリストを生きるべきです。そうすれば、キリストはご自身をもってわたしたちの文化に置き換わってくださいます——ピリピ 1:21 前半。
- D. わたしたちはキリストを生きるとき、自然に文化から救い出されます。また、わたしたちの生きるキリストは、自動的にわたしたちの文化に置き換わってくださいます。これが、コロサイ人への手紙の中にある啓示です—— 1:15, 18, 27. 2:2, 9-10. 3:4, 10-11。



一人の新しい人の構成要素——

文化に置き換わる、すべてを含む、無限に拡張するキリスト

聖書：コロサイ 1:15-18, 27. 2:9-10, 16-18. 3:4, 10-11

- I. わたしたちがコロサイ人への手紙の深みに入り込むなら、パウロがこの書において対処しているのは、人類文化という隠れた事柄であることを見ます：
- A. パウロがコロサイ第3章11節で「未開人」という言葉を使っていることは、この手紙が文化を対処していることの有力なしるしです。
- B. 文化とは、わたしたちが発展させて、わたしたちを生存させ維持してきた系統的な方法です——創 4:16-22：
1. 文化は、あらゆる人が無意識に生きている生活です——エペソ 2:2-3. 4:17。
  2. 全世界の人は、文化の影響を受けています。
- C. 文化がコロサイの信者に強烈な影響を及ぼしたように、文化は今日わたしたちに強烈な影響を及ぼしています——コロサイ 2:8-10, 16-18：
1. わたしたちは無意識のうちに、その中で生まれ育った文化の影響を受けています。この文化の要素はわたしたちの存在の一部分です——ガラテヤ 4:3, 9. コロサイ 2:8, 20。
  2. わたしたちは召会生活の中へと入って来たとき、わたしたちの文化を持ち込みました。この文化は、わたしたちのキリストと召会生活に対する享受を破壊します。
  3. キリストは召会生活における唯一の要素であるべきですが、かなり大きな程度で文化によって置き換えられています——8節. 3:11：
    - a. 潜在意識的にも無意識的にも、わたしたちはみな自分の文化を尊んでおり、自分の特定の文化的背景を高く評価しています。
    - b. 召会生活の中で、キリストは、他の何よりも文化によって置き換えられています——11節。
- II. コロサイ人への手紙が啓示しているのは、神のエコノミーの中で、すべてを含む、無限に拡張するキリストがすべてであるということです——コロサイ 1:15-18, 27：
- A. わたしたちは、このすばらしいキリストがわたしたちのすべてであるという明確なビジョンを必要とします。
- B. このようなビジョンは、キリストを経験することに対する、また召会生活に対する文化の影響を終わらせます。そして、わたしたちは文化的な人になるのではなく、キリストで占有され、所有され、浸透された人となります——3:11 後半。
- III. 首位の、すべてを含む、無限に拡張するキリストは、わたしたちの命であり、一人の新しい人の唯一の構成要素です——コロサイ 3:4, 10-11：

- A. 新しい人としての召会の構成要素はキリストであり、ただキリストだけです。召会の内容は、すべてを含む、無限に拡張するキリストにほかなりません——コロサイ 1:15-18. 2:9-10。
- B. すべてを含む、無限に拡張するキリストは、わたしたちの命として、また一人の新しい人の構成要素として、彼ご自身をもってわたしたちの文化に置き換わります—— 3:11。
- C. キリストをわたしたちの分け前として享受した結果、わたしたちは彼を一人の新しい人の内容また構成要素として経験します。最終的に、わたしたちが享受するキリストが新しい人の構成要素となります—— 1:12. 3:11。
- D. コロサイ第3章 11節によれば、新しい人には、さまざまな文化的な区別が存在し続けることは不可能です：
  - 1. 一人の新しい人には、文化的な区別はありません。なぜなら、新しい人のあらゆる部分はキリストで構成されているからです——コロサイ 3:11。
  - 2. この新しい人としての召会には、地域や文化や国籍の区別に地位はありません。どんな種族や国籍や文化や社会的身分にも地位がありません。
- E. キリストは新しい人の唯一の構成要素であるので、この新しい人の一部分である信者たちの間には、何の違いもあるべきではなく、召会と召会の間にも何の違いもあるべきではありません—— I コリント 4:17. 啓 1:12, 20. 22:16。

**IV. 新しい人の構成要素として、キリストはすべてであり、すべての中におられます。キリストはすべての肢体であり、すべての肢体の中におられます——コロサイ 3:11：**

- A. この新しい人としての召会では、キリストがあらゆる人であり、彼はまたあらゆる人の中におられます—— 1:27. 3:11。
- B. 一方で、新しい人の中では、天然の人に地位はありません。なぜなら、キリストがすべての肢体であるからです。
- C. もう一方で、キリストがすべての中におられるという事実が示しているのは、各肢体は依然として存在していても、キリストなしに存在するのではなく、キリストに内住されている人として存在するということです—— 1:27。
- D. わたしたちはキリストをわたしたちの命また構成要素とするとき、わたしたちがキリストと一であり、キリストがわたしたちであるという深い感覚を持ちます。また同時に、わたしたちはキリストがわたしたちの中におられるというさらに深い感覚を持ちます—— 3:4。
- E. この新しい人としての召会において、キリストはすべてです。これが暗示しているのは、すべての信者がキリストで構成されていなければならないということです—— 1:15-18. 2:16-17. 3:4, 10-11：

1. わたしたちはキリストで飽和され、キリストで浸透され、キリストが有機的にわたしたちの存在の中へと造り込まれるようにしなければなりません——ガラテヤ 4:19. エペソ 3:17 前半。
  2. 最終的に、わたしたちはキリストによって置き換えられます。その時、実際において、キリストはすべてとなり、すべての中におられるようになります。彼は新しい人のあらゆる部分となります——コロサイ 3:11 後半。
- F. 新しい人とは、すべての聖徒たちの中のキリストがわたしたちに飽和し、わたしたちに置き換わり、ついには、すべての天然の区別がなくなり、あらゆる人がキリストで構成されることです——ガラテヤ 4:19. エペソ 3:17 前半. コロサイ 1:27。
- G. わたしたちがすべてを含む、無限に拡張するキリストのビジョンと、キリストに対する十分な経験を持つとき、一人の新しい人は実際的にわたしたちの間に出現し、わたしたちは新しい人の生活を実際化します—— 3:10-17. ピレモン 10-16 節。
- H. もしキリストがすべての聖徒の生活であるなら、その時、新しい人にはキリストだけがいるようになり、すべての聖徒は、その国籍が何であれ、キリストを生きるでしょう。その時、実際と実行において、キリストは新しい人のすべての肢体となります——コロサイ 3:11. ペリピ 1:21 前半。
- V. 新エルサレムは、この一人の新しい人の最終的な完成です——エペソ 2:15-16. 4:24. コロサイ 3:10-11. 啓 21:2, 9-10 :**
- A. わたしたちは新エルサレムとなったとき、この宇宙的な一人の新しい人の生活を享受します。
  - B. 今日わたしたちは、すべてを含む、無限に拡張するキリストにわたしたちの文化に置き換わっていただき、彼ご自身をもってわたしたちを構成していただき、実際と実行においてわたしたちをみな一人の新しい人の各部分としていただくことによって、この享受の前味わいを持つことができます——コロサイ 1:27. 2:10. 3:4, 10-11。

復活の命の新鮮な供給をもって日ごとに新しくされて、  
わたしたちの文化を置き換え、  
新エルサレムのように新しくなることによって、  
実際において一人の新しい人となる

聖書：Ⅱコリント 4:16. エペソ 2:15. 4:22-24. コロサイ 3:10-11

I. エペソ第4章22節は、「以前の生活様式において……古い人を、脱ぎ捨て [なさい]」と書いています：

A. 「古い人」は、わたしたちの魂の中の天然の命を指しています。古い人はわたしたちの存在そのものです。それは神によって創造されましたが、罪を通して墮落しました——ローマ 6:6：

1. 古い人とそれが含むすべてのものは、召会生活にとって損害です。古い人がいる所には、召会はありません。これは、わたしたちであるもの、持っているもの、行なうことが、召会生活を実行不可能にすることを意味します。
2. もしわたしたちが古い人にしがたって生き続けるなら、召会生活は深刻な損害を受け、終わらされさえます。わたしたちが古い人とその以前の生活様式を脱ぎ捨てるなら、すばらしい召会生活、新エルサレムの縮小である召会生活を持つでしょう。そのような召会生活の中で、分裂を持つことは不可能です。

B. 「生活様式」という言葉は、多くの意味を含んでいます。世界のあらゆる国、あらゆる民族に、特有の生活様式があります：

1. 以前の生活様式は、わたしたちと関係のあるすべてのことを含んでいます。わたしたちは、自分であるもの、持っているもの、行なうことをすべて脱ぎ捨てなければなりません。わたしたちは、自分の生活の方法と文化を脱ぎ捨てなければなりません。わたしたちの文化が強ければ強いほど、わたしたちはますます他の人に対して批判的になります——参照、エペソ 4:31-32. コロサイ 3:12-14。
2. わたしたちは新しくされることを真に願うなら、以前の生活様式を脱ぎ捨てる必要があります。以前の生活様式は、わたしたちの生活の方法や文化と関係があります。新しい人には、ギリシャ人とユダヤ人、未開人とスクテヤ人、奴隷と自由人が存在する可能性はありません。なぜなら、これらの人に見いだされる以前の生活様式は、取り除かれているからです。
3. わたしたちは古い生活様式に戻る時はいつも、内側が暗くされ、神の命から離されることを自然に感じます——エペソ 4:17-19。

4. 召会生活を持つために、異なる文化や国からの人は、彼らの以前の生活様式に具体化されている古い人を脱ぎ捨てなければなりません。召会生活の中では、ただキリストに地位があるだけです——コロサイ 3:10-11。
5. いわゆる教会が国籍にしたがって形成されていることを見るのは、何と悲しむべきことでしょう！ わたしたちは自分の遺産を尊ぶのではなく、それを否定すべきです。わたしたちは自動的に自分の古い社会生活を好みますが、わたしたちの生活の方法は、性質、様式、実行において完全に新しくならなければなりません。

II. エペソ第 2 章 15 節から 16 節の新しい人は団体の人であるので、第 4 章 24 節の新しい人も団体の人であるに違いありません。エペソ第 4 章 24 節によれば、わたしたちはキリストの中ですでに創造された新しい人を着る必要があります：

- A. バプテスマにおいて、わたしたちは古い人を脱ぎ捨てました。この古い人は、キリストと共に十字架につけられ、葬られました。わたしたちが新しい人を着たのもバプテスマにおいてでした——エペソ 4:22-24. ローマ 6:6, 4。
- B. 古い人を脱ぎ捨てるのも、新しい人を着るのも、達成された事実です。今、わたしたちはわたしたちの思いの霊の中で新しくされることによって、これらの事実を経験し、実際化しなければなりません——エペソ 4:23：
  1. 古い人を脱ぎ捨てることは、十字架を自己に適用することによって、わたしたちの古い自己を否み、放棄することです——22 節. マタイ 16:24。
  2. 新しい人を着ることは、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給を通して、キリストを生き、キリストを大きく表現することです(ピリピ 1:19-21 前半)。これはキリストが新しい人を創造した時に成就したことを適用することです (エペソ 2:15. 4:24)。
- C. 神の霊とミングリングされているわたしたちの霊は、わたしたちの思いの霊とならなければなりません (エペソ 4:23)。そうすれば、わたしたちの生活はすべて霊によるものになり、わたしたちが行なう事はすべて霊にしたがったものになります。わたしたちはこの霊によって新しくされるとき、新しい人を着ます。
- D. わたしたちは、わたしたちの思いの中へと広がり、それを満たしているミングリングされた霊にしたがって歩く必要があります。このようにして、新しい人の日常の歩みは、思いの霊の中にあるようになります。これが召会生活の秘訣です——エペソ 4:23。
- E. 新しい人は、わたしたちの霊の中にいます。新しい人を着る方法は、その霊とミングリングされているわたしたちの霊（そこに神、神の住まい、新しい人が見いだされる）が、わたしたちの思いの霊となることです——エペソ 2:22. 4:23：

1. 霊 (the spirit) がわたしたちの思いの霊となることは、霊がわたしたちの思いを指図し、支配し、管理し、制御し、所有することを意味します (参照、I コリント 2:15-16. II コリント 2:13. 10:4-5)。霊がわたしたちの思いを指図するとき、わたしたちの全存在はわたしたちの霊の支配の下にあります。
  2. わたしたちがどれほど新しい人を着たかは、わたしたちの霊がどれほどわたしたちの存在を指図しているかにかかっています (I コリント 2:15)。わたしたちの霊がわたしたちを管理し指図する時、文化や意見や規定の余地はありません。わたしたちの全存在は霊によって管理され、支配され、制御され、指図されるので、わたしたちの方法に対する余地はありません。
  3. ミングリングされた霊がわたしたちの思いに浸透し、飽和し、所有すればするほど、ますますわたしたちはキリストの思いをわたしたちの思いとならせます——ピリピ 2:5. I コリント 2:16. ローマ 12:2。
- F. わたしたちが主イエスを信じた時、命を与える霊はわたしたちの霊の中へと入って来て、完成されたものである新しい人を彼と共にもたらしました。今や、新しい人はわたしたちの存在のあらゆる部分に浸透し、広がらなければなりません。新しい人が広がることは、新しい人を着ることと更新することの両方です。
- G. わたしたちは、思いのむなしさにしたがって生きるべきではなく、思いの霊にしたがって生きるべきです。これが、団体の一人の新しい人の日常生活のかぎであり、神の特性、キリストの香り、その霊の一で満たされた召会生活を持つ秘訣です——エペソ 4:3-4, 17-18, 23-24。
- H. わたしたちが主を愛することによって、また日々霊を活用して祈り、御言を読むことによって、わたしたちの思いはミングリングされた霊で満たされます。これがわたしたちの思いを変え、新しくします。わたしたちの思いの中で新しくされるとは、聖書の教えと聖霊の照らしによって、人生の事物に関する古い観念を除き去り、新しくされることです——詩 119:105, 130. II テモテ 3:15-17. 申 17:18-20。
- I. この時代に神の定められた御旨が成就され、実際における新しい人を持つのは、わたしたちすべてが進んで思いの霊の中で新しくされることよってのみ可能になります。
- III. コロサイ人に対するパウロの言葉の中心点は、思いが新しくされて、神のかたちであるキリストを知る全き知識へと至ることに関するものです。新しい人は、わたしたちの霊の中で創造されました。そして、わたしたちの思いの中で新しくされて、キリストのかたちにしたがって全き知識へと至りつつあります——エペソ 2:15. コロサイ 3:10-11 :

- A. 新しい人は、旧創造に属するわたしたちをもって創造されたので、新しくされる必要があります。この新しくされることは、「全き知識へと至る」という語句によって示されているように、おもにわたしたちの思いの中で起こります——コロサイ 3:10。
- B. 神にしたがって新しい人を創造することはすでに完了しましたが、わたしたちの経験において、新しい人は全き知識へと至るように少しずつ新しくされていきます。わたしたちは新しい人を着れば着るほど、ますます神が何であるかにしたがって新しくされ、ますます神のかたち、すなわち神が何であるかの表現を帯びます——コロサイ 3:10。
- C. 新しくされることは、神の要素がわたしたちの存在の中へと加えられて、わたしたちの古い要素を置き換え、排出するという事です——啓 21:5 前半。 II コリント 5:17。 ローマ 12:2。 II コリント 4:16 :
1. わたしたちの天然的で国民的な思想は、わたしたちの民族的で文化的な背景にしたがって教育され、建て上げられました。これは新しい人の実行上の実現にとって最大の妨げです。
  2. 一人の新しい人が完全に実現するようになるためには、わたしたちの国民性と文化にしたがって建て上げられてきたわたしたちの思いが徹底的に新しくされることを経験しなければなりません。
- D. 新しさは神です。ですから、新しくなることは、神格においてではなく、命と性質において神となることです :
1. 神は永遠に新しいのです。彼は、ご自身の常に新しい本質をわたしたちの存在の中へと注入し、わたしたちの全存在を新しくします——ローマ 12:2。 コロサイ 3:10。
  2. 神の霊は、神の属性をわたしたちの内側の各部分の中へと注入することによって、わたしたちを新しくします。この神の属性は、永遠に新しく、決して古くなり得ず、永存し、変わることがありません——啓 21:5 前半。
  3. 更新する霊は、新しい人の神聖な本質をわたしたちの存在の中へと分け与え、わたしたちを新創造、すなわち新しい人とします——テトス 3:5。 II コリント 5:17。 ガラテヤ 6:15。
- IV. わたしたちは、復活の命の新鮮な供給をもって日ごとに新しくされつつある者となり、わたしたちの文化を置き換え、新エルサレムのように新しくなることによって、実際において一人の新しい人となる必要があります——II コリント 4:16 :
- A. 新しい人を着ることは、一度で永遠に完成するものではありません。それどころか、それは一生の事柄であり、わたしたちのクリスチャン生活を通して継続する漸進的な過程です。
  - B. わたしたち再生された信者たちは、新しい人の一部分として、復活の中で

神聖な命の新しさの中を歩き、霊の新しさの中で仕えるべきです——ローマ 6:4. 7:6。

C. 信者たちは新しくされて、新エルサレムと同じように新しくなるべきです。それは彼らがみな命の新しさの中を歩くことによって（ローマ 6:4）新エルサレムとなりつつあり、また霊の新しさの中で仕えることによって（7:6）新エルサレムを建造しつつあるからです。

D. わたしたちが思いの霊の中で新しくされることは、キリストのかたちへと日ごとに造り変えられるためです。このことは、わたしたちの外なる人がわたしたちの環境において苦難を受けることによって朽ちることを通してであり、それはわたしたちの内なる人が新しくされるためです——Ⅱコリント 4:16：

1. わたしたちは苦難のただ中にいるとき、更新を受け入れる必要があります。そうでなければ、わたしたちが経過する苦難はわたしたちにとって無意味です。わたしたちの内側には避け所、すなわちわたしたちの霊があります——詩 91:1. 27:5. 31:20. イザヤ 32:2. Ⅱテモテ 4:22. ガラテヤ 6:17-18。

2. 神がわたしたちの環境を案配するのは、少しずつ日ごとに、わたしたちの外なる人が朽ちていき、わたしたちの内なる人が復活の命としての霊なるキリストの新鮮な供給によって、新しくされるためです——Ⅱコリント 4:16。

E. わたしたちは日ごとに新しくされるために、朝ごとに復興される必要があります——マタイ 13:43. ルカ 1:78-79. 箴 4:18. 士 5:31. Ⅱコリント 4:16。

F. わたしたちは以下の四つの項目を通して、日ごとに新しくされます。それは十字架（Ⅱコリント 4:10-12, 16-18）、聖霊（それによってわたしたちは神聖な命をもって、修復され、作り直され、造り変えられる——テトス 3:5）、わたしたちのミングリングされた霊（エペソ 4:23）、神の聖なる言葉です（5:26）。

G. わたしたちは新しさの中で主の食卓に来る必要があります（マタイ 26:29）。主は決して古い食卓にあずかりません。わたしたちは、「すみませんでした。わたしを赦してください」と言うことによって、新しくされる必要があります。

V. 新しい人が新しくされることは、わたしたちが上にあるものを求めることにかかっています——コロサイ 3:1-2. エペソ 2:5-6：

A. 上にあるものを求めることは、キリストの天の務めにおけるキリストの活動に応答し、それを反映することです——ヘブル 2:17. 4:14. 7:26. 8:1-2. 啓 5:6. コロサイ 3:1-2：

1. わたしたちの霊の中のすべてを含む霊によって、天のキリストから地上



のわたしたちに伝達が起こっています——エペソ 1:19, 22-23. 2:22 :

- a. わたしたちの霊は神聖な伝達を受ける一端ですが、天の神の御座は伝達する一端です——啓 5:6。
  - b. わたしたちは霊に戻ることによって、天に引き上げられます。天の神の御座からわたしたちの霊の中へと伝達があるので、わたしたちはこの地上でキリストを経験し享受するとき、同時に天にいます——啓 4:1-2。
2. キリストは、天の務めにおいて人々を牧養しています。わたしたちは、彼と協力して、人々を牧養する必要があります。もしわたしたちがこの交わりを受け入れるなら、地上で大きな復興があり、主の再来をもたらします—— I ペテロ 5:1-4. 参照、マタイ 9:36. 10:1-6. ヨハネ 21:15-17. I ペテロ 2:25. ヘブル 13:20。
- B. もしわたしたちが天のキリストと彼のすべての活動へと向きを変え、これらの事にわたしたちの思いを置くなら、新しい人の更新は自然に起こります——ヘブル 8:1-2. 12:2. コロサイ 3:2。
- C. このことは、信者たちを新創造である新しい人に創造することにおける神の意図を完成して、新エルサレムにおいて究極的に完成します。神の働きの傑作である新しい人は、完全に宇宙における新しいものであり、神の新しい発明です——コロサイ 3:10-11. II コリント 5:17. ガラテヤ 6:15-17. エペソ 2:10, 15。
- D. 神の目標は、一人の新しい人を得ることです。この新しい人は新エルサレムにおいて究極的に完成します。新エルサレムは一人の新しい人の最終の究極的完成となります。

イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、わたしたちの文化の生活をするのではなく、一人の新しい人の生活をする  
聖書：エペソ 4:20-21. マタイ 11:28-30. 14:19. ヨハネ 5:19, 30. 7:18. 10:30

I. わたしたちの生活の標準は、わたしたちの文化にしたがっているのではなく、イエスにあるあの実際、すなわち、主イエスが地上にいた時に生かし出した実際にしたがっていなければなりません——エペソ 4:20-21：

A. 主イエスが地上で生きた方法は、新しい人が今日生きるべき方法です——マタイ 11:28-30. ヨハネ 6:57. 4:34. 5:17, 19, 30. 6:38. 17:4。

B. 「イエスにあるあの実際」(エペソ 4:21) とは、四福音書に記録されているような、イエスの生活の実際の状態を指しています。イエスは神の中で、神と共に、神のために、すべてのことを行なう生活をしました。神は彼の生活の中におられ、彼は神と一でした。

C. イエスは常に神の義と聖に符合した方法で生活しました。イエスの生活の中で、あの実際の義と聖が常に展覧されました——エペソ 4:24：

1. イエスの人の生活は、この実際にしたがっていました。すなわち、神ご自身にしたがっており、義と聖に満ちていました。

2. この実際(栄光が現され、表現された神)の義と聖の中で、新しい人は創造されました。

D. わたしたちはキリストを学び、彼の中で教えられて、実際の生活をする必要があります。キリストを学ぶことは、ただキリストの模範の中へと鑄込まれること、すなわちキリストのかたちに同形化されることです——20-21節. ローマ 8:28-29. II ヨハネ 1節. ヨハネ 4:23-24。

E. 新しい人は団体の人として、イエスにあるあの実際にしたがって、実際の生活をすべきです。それは、神を表現する生活です。

F. わたしたちは思いの霊にしたがって生活するなら、団体的な新しい人の日常生活、すなわちイエスにあるあの実際に符合する生活をするでしょう——エペソ 4:23。

II. 一人の新しい人の生活は、イエスの生活と全く同じであるべきです。団体的な神・人としての一人の新しい人のために、わたしたちは神・人の生活をする必要があります——ピリピ 1:19-21 前半. 3:10. エペソ 4:20-21. 参照、I ヨハネ 4:17 とフットノート 5：

A. キリストの人の生活は、人が神を生きて人性の美德の中で神の属性を表現することでした。彼の人性の美德は、神聖な属性で満たされ、ミングリングされ、浸透されていきました——ルカ 1:26-35. 7:11-17. 10:25-37. 19:1-10：

1. 主イエスが地上におられた時、彼は人でしたが、神によって生きました——ヨハネ 6:57. 5:19, 30. 6:38. 8:28. 7:16-17。

2. 主イエスはあらゆることにおいて神を生き、神を表現しました。何であれ彼が行なったことは、彼の中で、また彼を通して神が行なったことでした—— 14:10。
  3. マルコによる福音書が啓示しているのは、主イエスの生きた生活が完全に神の新約エコノミーにしたがっており、神の新約エコノミーのためであったということです。
- B. 最初の神・人の拡張、拡大、複製、継続として、わたしたちは彼が生きたのと同じような生活をすべきです—— I ヨハネ 2:6 :
1. 主の神・人の生活は、わたしたちの神・人の生活の模範を打ち立てました。それは、十字架につけられて生き、神が人性において表現されるようにすることです——ガラテヤ 2:20。
  2. わたしたちは自分自身を否み、キリストの死に同形化され、彼の霊の満ちあふれる供給によって彼を大きく表現する必要があります——マタイ 16:24. ピリピ 3:10. 1:19-21 前半。
  3. わたしたちは自己修養を拒絶し、天然の人を建て上げることを罪定めしなければなりません。わたしたちが認識する必要があるのは、クリスチャンの美德が本質的に神聖な命と、神聖な性質と、神ご自身と関係があるということです——ガラテヤ 5:22-23。
  4. 神・人の生活をした方は、今やその霊であり、わたしたちの中で、わたしたちを通して生きています。わたしたちは、この方以外のどんなものにも満たされたり、占有されたりすべきではありません——II コリント 3:17. 13:5. エペソ 3:16-19。
  5. わたしたちは自分の全存在を主に開いて（霊の中で、また祈りの雰囲気の中で）、ルカ第 6 章 36 節における、わたしたちに対する彼の命令を受け入れる必要があります。すなわち、「あなたがたの父があわれみに満ちておられるように、あわれみに満ちていなさい」。わたしたちは毎朝、あわれみ深い方としての主と接触する必要があります——哀 3:22-23. ローマ 9:15 とフットノート 2. 出 34:6. 詩 103:8. ルカ 1:78-79. 10:25-37. ローマ 12:1。
- III. 主は、五つのパンと二匹の魚をもって五千人を養う奇跡を行なうことにおいて、弟子たちを訓練して、彼から学ばせました——マタイ 14:14-21. 11:28-30 :
- A. マタイ第 14 章 19 節は、主が五つのパンと二匹の魚を取り、それらを祝福しようとしていた時、天を見上げたと言っています :
1. 「天を見上げて」は、彼がご自身の源を、すなわち、天の御父を見上げていたことを示しています :
    - a. これが示しているのは、主が祝福の源ではないことを、主が認識していたということです。遣わされた方ではなく、遣わす方である御父が、

祝福の源であるべきです——参照、ローマ 11:36。

- b. わたしたちはどれほど行なうことができても、あるいは何を行なうべきかをどれほど知っていても、わたしたちが行なっていることを、遣わす方に祝福していただく必要があることを認識しなければなりません。それによってわたしたちは、自分自身ではなく彼に信頼することによって、供給の経路となることができます——参照、マタイ 14:19 後半、民 6:22-27。
2. 彼が天の御父を見上げたことが示していたのは、彼が天の御父によって遣わされた地上にいる御子として、御父と一であり、御父に信頼していたということです——ヨハネ 10:30 :  
ヨハネ 10:30 わたしと父は一である」。
  - a. わたしたちが知っている事や行なうことができる事は何の意味もありません。主と一であり、主に信頼することが、わたしたちの務めにおいてすべてを意味します——参照、I コリント 2:3-4。
  - b. 祝福は、わたしたちが主と一であり、彼に信頼することによってのみ臨みます——参照、II コリント 1:8-9。
3. 主はご自身から何も行ないませんでした——ヨハネ 5:19、参照、マタイ 16:24 :
    - a. わたしたちは自分自身を否むべきであり、自分自身からは何も行なおうとすべきではなく、主からあらゆることを行なおうとすべきです。
    - b. わたしたちはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、継続的に霊を活用し、自己を拒絶して、別の命によって生きる必要があります——ピリピ 1:19-21 前半。
  4. 主は、ご自身の意志を求めたのではなく、彼を遣わされた方のみこころを求めました——ヨハネ 5:30 後半、6:38、マタイ 26:39, 42 :
    - a. 主はご自身の考え、意図、目的を拒絶しました。
    - b. わたしたちはみな、この一つの事を警戒すべきです。すなわち、わたしたちは遣わされてある働きを行なうとき、その機会をとらえて自分自身の目標を求めるべきではありません。わたしたちはただ出て行って、わたしたちを遣わす主の考え、目的、目標、ゴール、意図を求めるべきです——参照、I テモテ 5:2 後半。
  5. 主は、ご自身の栄光を求めないで、彼を遣わした御父の栄光を求めました——ヨハネ 7:18、5:41、参照、12:43 :
    - a. 野心を持つとは、自分の栄光を求めることです——参照、III ヨハネ 9 節。
    - b. わたしたちは働きにおいて、わたしたちの自己、わたしたちの目的、わたしたちの野心が三つの大きな破壊する「害虫」であることを見る

必要があります。わたしたちはそれらを憎むことを学ばなければなりません。

- B. わたしたちは、常に主の回復の中で主のために用いられようとするなら、一人の新しい人のために、わたしたちの自己を否まなければならない、わたしたちの目的を拒絶しなければならない、わたしたちの野心を放棄しなければならない——マタイ 16:24。

神のエコノミーにしたがった宇宙の歴史、  
すなわち、人類歴史の内側にある神聖な歴史は、  
一人の新しい人を持つという主の心の願いを成就する

聖書：ヨエル 1:4. 3:11. エペソ 1:3-6. 2:15. 4:22-24. ミカ 5:2. 啓 19:7-9

I. この宇宙には、二つの歴史があります。すなわち、人の歴史（人類歴史）と神の歴史（神聖な歴史）です。前者は、外側の殻のようなものであり、後者は、殻の内側の核のようなものです——参照、ヨエル 1:4：

A. 人類歴史の内側にある神聖な歴史は、聖書の中でかなり詳細にわたって啓示されています。神の歴史はわたしたちの歴史です。なぜなら、神はわたしたちと結合されているからです：

1. わたしたちは、過去の永遠における神の歴史が、神が行動して人と結合するための準備であったということを見る必要があります：

a. 神聖な歴史は、永遠の神と神のエコノミーをもって開始しました。神のエコノミーによれば、神が願っているのは、ご自身を人の中へと造り込んで人と一になり、人の命、命の供給、すべてとなって、人を彼の表現とすることです——エペソ 3:9-10. 1:10. 創 1:26. 2:9。

b. 神はご自身の神聖な三一の中で、永遠において一つの会議を持ち、神の永遠のエコノミーを完成するための、キリストの極めて重要な死に関して決定しました——使徒 2:23。

c. 神聖な三一の第二は、永遠から時間の中へのご自身が「出て行く」ことを遂行して、ベツレヘムで生まれてひとりの人と成ることを準備していました——ミカ 5:2。

d. 神は世の基が置かれる前から、キリストの中で、天上にある霊のものである祝福をもって、信者たちを祝福してくださいました——エペソ 1:3-6。

2. 人の中にある神の歴史は、肉体と成ることををもって開始しました。そして、人の生活、十字架、復活、昇天という過程をもって継続しました。ホセア書第 11 章 4 節は、これらは人の綱、愛のきずなであると言っています：

a. 神聖な歴史、すなわち、人の中での神の行動は、手順を経たキリストという、原型としての神・人をもって継続して、新しい人へと至り、新エルサレムという大いなる神・人において究極的に完成します。すなわち、神の永遠のエコノミーを究極的に完成します。

b. キリストは、ご自身の肉体と成ることと人の生活を通して、無限の神を有限な人の中へともたらしめました。またキリストは、三一の神と三部分から成る人とを結合し、ミングリングしました。またキリストは

彼の人性において、満ちあふれる神を、彼の豊富な属性の中で、彼のかぐわしい美德を通して表現しました。

- c. キリストが十字架につけられたことは、身代わりの死、すべてを含む死、すべてを含む法理的な贖いであって、それは旧創造を終結させ、すべての問題を解決しました（ヨハネ 1:29）。キリストは十字架につけられることにおいて、神によって創造されて罪の中で墮落したすべてのものを贖いました（ヘブル 2:9. コロサイ 1:20）。キリストはご自身の神聖な要素をもって新しい人を創造し（身ごもり）（エペソ 2:15）、そしてご自身の人性の殻の内側からご自身の神聖な命を解き放ちました（ヨハネ 12:24. 19:34. ルカ 12:49-50）。
- d. キリストはご自身の復活において、生まれて神の長子となり（使徒 13:33. ローマ 1:4. 8:29）、命を与える霊と成り（I コリント 15:45 後半）、無数の人々を再生して神の子たちとならせ、そしてキリストのからだの肢体、また一人の新しい人（召会）の構成要素とならせました（I ペテロ 1:3. コロサイ 3:10-11）。
- e. キリストは昇天し、それからその霊として下って来て、三一の神の団体的な表現のために、召会を一人の新しい人として生み出しました——ヨエル 2:28-32. 使徒 2:1-4, 16-21。

B. こういうわけで、召会も一人の新しい人の実際として、神聖な歴史の一部です。この歴史は、外側の人類歴史の内側にある、神聖な奥義の内在的な歴史です。キリストは神聖な歴史のこの部分の終わりに、ご自身の軍隊としてのご自身の勝利者たちと共に再来して（ヨエル 1:4. 3:11）、反キリストとその軍隊を打ち破ります。

C. この事に続いて、千年王国がやって来ます。最終的に、この王国は新しい天と新しい地における、新エルサレムにおいて究極的に完成します。新エルサレムは、神の歴史の最終的な、究極的に完成した段階となります。

**II. わたしたちは、ペテロ（漁をする務め）、パウロ（建造する務め）、ヨハネ（繕う務め）に、一人の新しい人を持つという主の心の願いを見ることができません：**

- A. 神はペンテコステの日に、ペテロを用いて、多くのユダヤ人信者をもたらしました（使徒 2:5-11）。さらに、コルネリオは祈りの中でビジョンを受け（10:30）、ペテロも祈りの中でビジョンを受けました（17, 19 節）。これらの事を通して、異邦人を得るという神のご計画と行動（9 節後半-14 節, 27-29 節）は、一人の新しい人が実際的に出現するために遂行されました。
- B. パウロがエペソ第 2 章 14 節から 15 節において明らかにしているのは、キリストが新しい人を創造する死を通して、ユダヤ人と異邦人の両者を一人の新しい人へと創造したということです（参照、4:22-24）。パウロが I コリ

ント第 12 章 13 節においてわたしたちに告げているのは、わたしたちがみな「ユダヤ人もギリシャ人も」、一つからだの中へとバプテスマされたということです。パウロがガラテヤ第 3 章 27 節から 28 節においてわたしたちに告げているのは、キリストの中へとバプテスマされた人たちがキリストを着たので、「ユダヤ人もギリシャ人もあり得」ないということです。パウロがコロサイ第 3 章 10 節から 11 節においてわたしたちに告げているのは、新しい人の中にはユダヤ人とギリシャ人に何の余地もないということです。

- C. ヨハネがわたしたちに告げているのは、主がご自分の血によって、「あらゆる部族、言語、民族、国から人々」を買い取ったということです（啓 5:9）。これらの贖われた人たちは、一人の新しい人としての召会を構成しています。ヨハネを通して、わたしたちも、召会が金の燭台であることを見ます（1:11-12）。究極的に、これらの燭台は新エルサレムとなります。わたしたちは燭台において、また新エルサレムにおいて、人々の中に何の違いも見ることができません。
- D. これらすべての事が示しているのは、わたしたちが毎日、一つ霊を飲むことによって古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を着る必要があるということです（I コリント 12:13）。それは、わたしたちが、実際の日常生活のあらゆる面で、わたしたちの思いの霊の中で新しくされて、主の心の願いを遂行し、実際に一人の新しい人を持つためです（エペソ 4:22-24）。

### III. 神聖な歴史には新創造があります。それは新しい人であり、新しい心、新しい霊、新しい命、新しい性質、新しい歴史、新しい終結を持っています——詩歌 11 番. エゼキエル 36:26. II コリント 3:16. マタイ 5:8. テトス 3:5 :

- A. 神聖な歴史、すなわち、人の中での神の歴史は、キリストが肉体と成ることから開始し、ご自身の昇天を経て、命を与える霊と成り、それから、再生、聖別、更新、造り変え、同形化、栄光化という神の有機的な救いを通して、彼がわたしたちに内住することをもって継続し、わたしたちを一人の新しい人の完全な実際の中へともたらし、わたしたちをキリストの栄光の花嫁とします——エペソ 4:22-24. ローマ 5:10. 啓 19:7-9。
- B. 今わたしたちは自分自身にこの質問をする必要があります。わたしたちは神聖な歴史の中で生きていますでしょうか、それとも単に人類歴史の中で生きていますでしょうか？ :
1. わたしたちはみな人類歴史の中で生まれましたが、神聖な歴史の中で再び生まれ、再生されました。もし、わたしたちの生活がこの世にあるなら、わたしたちは人類歴史の中で生きています。しかし、もしわたしたちが、一人の新しい人の実際としての召会の中で生きていますなら、わたしたちは神聖な歴史の中で生きています。召会生活の中で、神の歴史はわたしたちの歴史です。今や両者、すなわち、神とわたしたちは、一つ



の歴史、すなわち神聖な歴史を持っています。

2. わたしたちは神聖な歴史の中で、奥義的で神聖な事柄を経験し、享受していることのゆえに、主を賛美します。それはわたしたちの有機的な救いのためであり、また人の住む全地に平和の福音を宣べ伝えることを通して、主に拡大を得ていただくためであり（エペソ 2:14-17. 6:15. 参照、マタイ 24:14）、それによって、わたしたちが実際において一人の新しい人となって、勝利を得た彼の花嫁となるためです。